

到達目標	目標を極めて高い水準で達成している。(1~5は+7点、6は+5点)	目標を高い水準で達成している(1~5は+5点、6は+3点)	目標を標準的な水準で達成している。(1~5は+3点、6は+1点)	目標を最低限の水準で達成している。(1~5は+1点、6は加点点なし)	目標を達成していない(1つでもあてはまれば不合格)
1.ヒトの循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系の構造を、それぞれの生理学と結びつけて説明できる。	右記すべての説明が、明確な図解とともに根拠に基づいて理論的に完全な形でなされており、そのまま教科書として使えるレベルである。	右記に加えて、腹腔内臓器の立体的な位置関係ならびに腹部大動脈の主な分枝について、腹部エコーでの観察に基づいて図解により説明できる。	右記に加えて、心の内部構造、肺、肝、消化管、脾、腎の組織レベルでの構造についても生理機能と関連付けて図解により説明でき、門脈の主な分枝も名前とともに図解により説明できる。	ラットでの観察に基づき、ヒトの心、肺、消化管、肝、脾、腎、雌雄生殖器、以上全ての解剖が、それぞれの生理機能と関連付けて図解により説明でき、動脈系と静脈系についても主な血管名とともに図解により説明できる。	ヒトの心、肺、消化管、肝、脾、腎、雌雄生殖器の中で、その解剖と機能を関連付けて説明できていないものが一つでもある。
2.炎症性ペプチドとしてのブラジキニンの生成機構と作用機序について分子レベルで説明できる。	右記すべての説明が、明確な図解とともに根拠に基づいて理論的に完全な形でなされており、そのまま教科書として使えるレベルである。	右記に加えて、実験での観察で気付いた課題や、それを確認する実験について理論的に説明できる。	右記に加えて、関連する炎症性メディエーターの生成機構や作用機序についても分子レベルで図解により説明できる。	ブラジキニン为例に、炎症性ペプチドの作用機序について分子レベルで図解による説明でき、生成機構についてはレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系や血液凝固系との関連とともに図解により説明できる。	炎症性ペプチドとしてのブラジキニンの生成機構と作用機序について説明できていない。
3.腎機能測定法の原理と尿の生成機構について説明できる。	右記すべての説明が、明確な図解とともに根拠に基づいて理論的に完全な形でなされており、そのまま教科書として使えるレベルである。	右記に加えて、腎機能の評価方法全般について説明できるとともに、CKDのステージ分類や栄養指導についても説明できる。	右記に加えて、クリアランスの概念について薬理学的に説明できるとともに、尿の生成機構と尿量調節機構についてネフロン構造の図解により説明ができる。	クレアチニンクリアランスが糸球体濾過量をほぼ反映する理由を明確に説明できるとともに、尿の濃縮機構についても、ホルモンによる調節機構とともに説明できる。	腎機能測定法と尿の生成機構のいずれかについて説明できていない。
4.呼吸機能検査法の概要と主な呼吸器疾患の病態について説明できる。	右記すべての説明が、明確な図解とともに根拠に基づいて理論的に完全な形でなされており、そのまま教科書として使えるレベルである。	右記に加えて、パルスオキシメーターの原理と酸素解離曲線について説明でき、心拍数の呼吸性変動が起こる仕組みについても生理学的に説明できる。	右記に加えて、呼吸機能検査で測定できたすべての検査項目の意義について説明できる。	拘束性障害と閉塞性障害をもたらす主な呼吸器疾患の病態について説明でき、フローボリューム曲線の意味するところについても図解により説明できる。	一秒率と%肺活量の測定方法と正常範囲、間質性肺炎とCOPDの病態、以上のうちいずれかの説明ができていない。
5.静止電位と活動電位の生成機構、心電図診断の概要が説明できる。	右記すべての説明が、明確な図解とともに根拠に基づいて理論的に完全な形でなされており、そのまま教科書として使えるレベルである。	右記に加えて、血圧の測定方法について説明できるとともに、血圧の正常値、高血圧の病態生理学についても説明できる。	右記に加えて、ネルンスト・ゴールドマン式、Ca電位の生成、心臓の収縮機構に関して電気生理学的に説明できるとともに、心電図の波形と心収縮、心音ならびに血圧との関係についても説明できる。	静止電位と活動電位の生成機構について電気生理学的に説明でき、心電図の原理と正常波形の意味についても説明でき、心電図を用いた系統的な診断方法については、異常な波形を記載しながら説明できる。	静止電位と活動電位の生成機構の説明ができていない。あるいは、心電図診断の概要が説明できない。
6.他者と協働して解剖生理学に関わる自身の知識や考え方を高めることができる。	解剖生理学に関わる実験内容の完全な理解に基づき、グループ全体の知識レベルとモチベーション向上に中心的な役割を果たすことができる。	事前準備を十分に行うことにより、解剖生理学に関わる実験中にグループ全体をリードしながら作業を進めることができる。	教科書や参考書から得た情報を他者と共有し、グループ全体の解剖生理学に関する知識レベルの向上に貢献できる。	他者と協働して、解剖生理学に関わる自身の知識や考え方を高めることができる。	他者と協働して解剖生理学に関わる自身の知識や考え方を高めることができない。